

第 23 回日本生体防御学会学術総会レポート

修士課程二年 鈴木 弘章

2012年7月9日～11日の3日間、第23回日本生体防御学会学術総会に参加させていただきました。

今回の総会で最も印象に残った出来事は、『若手研究者シンポジウム』において座長という大役を預らせて頂いた事です。私以外、助教や研究員としてご活躍されている先生方ばかりで大変恐縮しましたが、貴重な経験をする事ができました。自身の発表も比較的長い発表時間であったため、有意義な議論を交わす事ができ大変満足しています。今回の『若手研究者シンポジウム』に選考して頂いた先生方には深く感謝いたします。

セッションでは参考になる演題が多数ありましたが、その中でももう一つのシンポジウム『オートファジーの基礎と病態』は大変興味深いものでした。日本が世界をリードするオートファジー分野において、その最先端を走る先生方のご講演は面白く、特に *Salmonella* に対するオートファジー認識機構や、p62、Nbr1 を介した選択的オートファジー形成制御機構の発表は、生体防御とオートファジーの新たな側面を明らかにするものでした。

今回、このような機会を与えて下さった多くの方々に深く感謝致します。ありがとうございました。

生体防御学会レポート

M2 大沼史明

私は、2012年7月9日から11日まで東京で行われた第23回生体防御学会学術総会に参加しました。参加されている先生方の中には、哺乳類の獲得免疫を研究されている方や医師として診療に携わった中で分かってきた臨床的な知見を発表されている方など、様々なバックグラウンドを持つ方がいらっしゃいました。そのような先生方の中で、ショウジョウバエの自然免疫についての私の発表が一体どれほどの関心・理解を得られるのかについて不安を感じる部分が大きかったのですが、参加された先生方からたくさんの意見・質問をいただき、私の研究に興味を持ってくださっているということを実感することができました。この経験から、これからの私の研究における強いモチベーションを得ることができましたし、違うバックグラウンドを持つ先生方から見た時に私の研究はどのように映っているかを理解することができました。このことは研究室での今後の研究・発表に必ず活きてくると思っています。